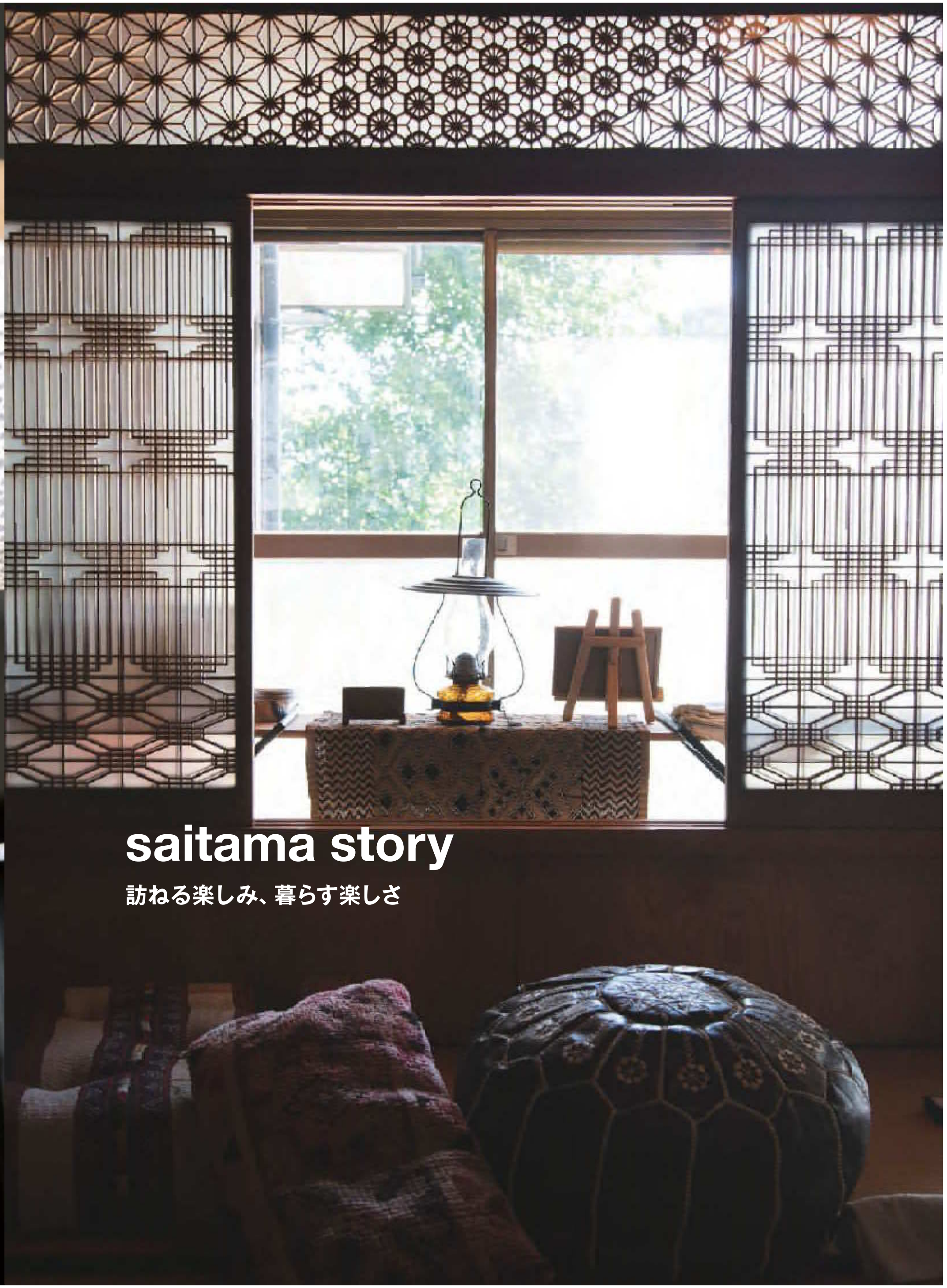


saitama story

訪ねる楽しみ、暮らす楽しさ

埼玉を楽しむ ヒト・モノ・コトMAP

1 ちちぶ銘仙館 →P.4
2 玉淀河原(寄居玉淀水天宮祭) →P.5
3 新井武平商店 →P.5
4 宝登山神社 →P.6
5 渋沢栄一記念館 →P.7
6 うどんサミット実行委員会 →P.7
7 道の駅 和紙の里 ひがしちちぶ →P.11
8 NPO法人 西川・森の市場 →P.12
9 小島染織工業株式会社 →P.13
10 足袋とくらしの博物館 →P.13
11 北本市観光協会 →P.14
12 玉成舎 →P.15

13 オープン＆フレンドリースペース Area898 →P.16
14 株式会社カネザワ →P.17
15 YORI MaMa →P.17
16 小鹿野町観光交流館 本陣 →P.18
17 ヌイシロ →P.19
18 鳩山町コミュニティ・マルシェ →P.19
19 遠藤さんファミリー →P.20
20 浅見さんファミリー(オクムサ・マルシェ) →P.21
21 青木さんご夫婦(野あそび夫婦) →P.22
22 細野さんファミリー(ふくくるしょくどう) →P.23

主な鉄道
- 新幹線
- JR線
- 秩父鉄道
- 西武線
- 東武線

住んでいるヒトだけが知っている、
ちょっといい日常の楽しみかた。
ずっと大切にしてきた、ちょっとだけ
自慢したくなるモノ。
あたりまえのように見えて、
ちょっぴり贅沢なコト。

「なにもない」と言われる埼玉県には、
実は“いいひと”“いいもの”“いいこと”が
あふれています。

そんな素敵な「ヒト・モノ・コト」の
ものがたりを紹介しながら
埼玉に訪れる楽しみ、
暮らす楽しさをお伝えします。

contents

2 特集1
埼玉SL沿線のまち

10 特集2
今に息づく埼玉の伝統産業

14 埼玉ぐらしへようこそ！
20 家族のじかん
24 お試し住宅、体験しました！ in 小鹿野町＆皆野町
25 「埼玉のたのしみかた フォトコンテスト2019」応募方法
26 移住information

特集1

埼玉SL沿線のまち

「都心から一番近いSL」が走る秩父鉄道。
埼玉県北部を東西に横断し、
車窓からは田園や荒川、秩父の山々など
こころ癒される景色を楽しむことができます。
自然あふれるSL沿線のまちには
都心とはまた違った
豊かな暮らしがありそうです。
まずはSLが走るまちを訪れ、
埼玉での暮らしに思いをはせてみませんか。
伝統のお祭りや地域で愛される味など、
とっておきの「埼玉ものがたり」が、
きっと見つかるはずです。

養蚕と機織の里を訪ねて

秩父

ちちぶ銘仙館

秩父市熊木町28-1
0494-21-2112
9:00-16:00
年末年始(12月29日〜1月3日)休み
http://www.meisenkan.com

御花畑駅から徒歩10分ほどのところに位置する「ちちぶ銘仙館」。平成二十五年に国指定伝統的工芸品にも指定された絹織物「秩父銘仙」の歴史や、工程が詳細にわかる工房などが展示されている資料館です。昭和初期の瀟洒な外観が目を引く建物は、旧埼玉県秩父工業試験場として使用されていたもので、平成十三年には国の登録有形文化財に指定されています。

そもそも秩父銘仙とは、崇神天皇の治世に秩父神社などに祀られている知々夫彦命が住民に養蚕と機織の技術を伝えたことが起源とされています。山に囲まれている秩父は稲作向きではなく、養蚕業が盛んでした。その中で規格外の繭を使用し、「太織」と呼ばれる野良着（農作業用の衣服）を生産したことで、これが評判となり人々の普段着として好まれてきました。のちに秩父銘仙と名前を変え、縦糸にほぐし模様をつける捺染加工をする秩父の伝統染色「ほぐし捺染」技術の開発によって、非常に華やかで美しいデザインの織物が生み出されました。また、大正から昭和初期にかけては女性たちの間で手軽なおしゃれ着として全国的な人気を誇りました。

館内では秩父銘仙の染め織り体験のほか、織機を使用した織り体験でコースターなどを作ったり、また型染め体験では、ハンカチや巾着に型紙を使用して染める体験ができます。それぞれ所要時間三十分から一時間ほどなので、気軽に伝統工芸に親しむことができます。

近年、再び注目を集めている秩父銘仙。秩父が全国に誇る伝統的な織物に触れ、当時の秩父地域の暮らしや営みに想いを馳せてみてはいかがでしょうか？

染織や機織の伝統的な手法を見学できます

色鮮やかで素敵なデザインの秩父銘仙の着物が数多く展示されています

光の競演に心揺さぶられて

寄居

寄居玉淀水天宮祭

寄居玉淀水天宮祭
毎年8月の第一土曜日に開催。舟山車と奉納花火は玉淀河原にて行われます。詳しくは寄居町観光協会HPをご覧ください。
http://yorii-kanko.jp/index.php

「関東一の水祭り」として名高い寄居玉淀水天宮祭。水難除けや安産、子育てなどを祈願して昭和六年に始まった地域の大切な神事です。町内を練り歩く神輿が目指すのは玉淀河原。そこにはぼんぼりや提灯で飾られた美しい舟山車が整然と並び神輿を出迎えます。宵には舟山車にあかりが灯り、鉢形城跡を背景に幻想的な一夜がスタート。川面に映る舟山車と、頭上できらめく花火の競演はまさに絶景。地域の子どもたちもお囃子でお祭りを盛り上げます。「最近では積極的に参加してくれる他地域の若者もいて、心強い限り」と祭りに携わる寄居町商工会副会長の大久保和勇さん。地域特有の行事への参加もあたたかく迎え入れてくれる寄居町には、都会とは一味違ったライフスタイルが期待できそうです。

町の人々が担ぐ神輿が約1時間半、町内を練り歩きます

舟山車と花火の競演。いつまでも見た人々の心に残る絶景です

守り続ける地域の味

皆野

新井武平商店

新井武平商店(直売工場)
秩父郡皆野町大字皆野573-2
0494-62-0156
9:00-17:00
不定休
http://www.chichibu-miso.jp

あたりに漂う香ばしい味噌の香り。昭和五年創業の新井武平商店は、秩父地域で現存する数少ない味噌製造の老舗です。古くから大豆と麦の産地であった秩父地域では、かつては各家庭で味噌を作っていたそう。当主の新井藤治さんはこの地域性を活かした秩父味噌の商品開発を積極的に行っています。初代が販売を始めた大麦と大豆から作ったもろみ味噌に、甘味と茄子・しょうがを加えた「秩父おなめ」は秩父土産の代表格。「地域の人に支えられて味噌作りをしています」と話す新井さんは、秩父地域の特産品を広めるため、敷地内でコンサートを開催するなど様々な活動を行っています。新井さんが受け継いだ味噌づくりと地域への愛。人と人の交流を生み、街を盛り上げています。

温度や湿度管理など、手間ひまかけた味噌はやさしい味わい

厳選した素材と秩父のおいしい水を使って作られています

悠久の時に触れる場所

長瀞　寳登山神社

寳登山神社はおよそ一九〇〇年前、西暦一一〇年に創建した由緒ある神社です。拝殿は宝登山（標高497m）の麓にあり奥宮は山頂に鎮座しています。

創建の由来として日本武尊の逸話が伝わっています。日本武尊が山頂を目指して登っていた時に山火事が起き一面が火の海になったところ、山犬たちが火を消し止めて救ってくれたことから、山の名を「火を止める山」として「火止山」と名付け、のちに「宝登山」と呼ばれるようになったとされています。

火災盗難よけなどの守護神として知られ、地元のみならず、関東一円から年間百万人以上もの参拝者が訪れ、近年は秩父を代表するパワースポットとしても人気を集めています。

自然豊かな宝登山は紅葉や花の名所としても有名です。十一月上旬から下旬には紅葉した境内の木々がライトアップされ、幻想的な雰囲気につつまれます。

冬には山頂にロウバイや梅の花が咲き乱れ、眼下に広がる長瀞や秩父の街並み、秩父のシンボル「武甲山」、のこぎり状の山容をした「両神山」などの眺望とともに訪れる人を魅了します。

また、長瀞は「日本さくら名所百選」にも選ばれている埼玉県を代表する桜の名所でもあり、春になると町全体が桜色に染まって、お花見とあわせて神社を参拝する人々の姿も多く見られます。

平成二十三年、寳登山神社は「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に掲載され、県内初の一つ星を獲得。悠久の歴史を通じて人々を見守ってきた寳登山神社は、いまや世界が認める存在になっています。

美しい彩色が施された本殿彫刻

寳登山神社奥宮へはロープウェイの利用もおすすめ

秩父郡長瀞町長瀞1828
0494-66-0084
http://www.hodosan-jinja.or.jp

近代日本経済の父を知る

深谷　渋沢栄一記念館

NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公や、新一万円札の肖像になることで注目が集まっている渋沢栄一はその功績から「近代日本経済の父」と呼ばれています。現在の深谷市の農家に生まれた渋沢栄一は、幕府や大蔵省の一員として激動の時代を過ごし、その後、経済人として日本銀行等を含む約五百もの企業の設立に関わったといわれています。

また渋沢栄一は「論語」の精神を尊重し、企業家のあるべき姿を示す一方で、福祉や教育などの社会事業にも熱心に取り組みました。

深谷市には渋沢栄一の関連資料が充実する「渋沢栄一記念館」、生地である「中の家」、喜寿を記念して建設された「誠之堂」などがあり、偉大な渋沢栄一の足跡をたどることができます。

深谷市下手計1204
048-587-1100
http://www.city.fukaya.saitama.jp/shibusawa_eiichi/

旧渋沢邸「中の家（なかんち）」

渋沢ゆかりの建物「誠之堂（せいしどう）」

令和6年から発行される新紙幣の1万円札の肖像として採用され、改めて渋沢の功績に人々の注目が集まっています

広がる、つながる、地域のチカラ

熊谷　うどんサミット実行委員会

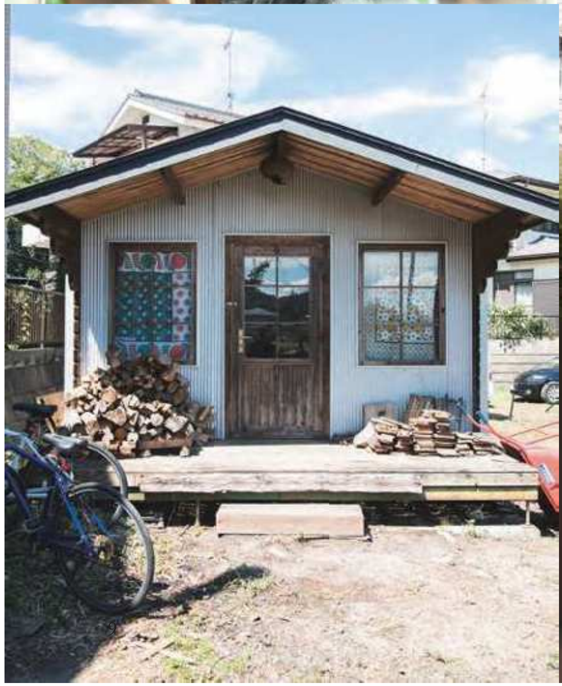
小麦本来の爽やかな香りと心地よいのどごし。絶品うどんで地域を盛り上げる全国的なうどんイベントが、近年熊谷市で開催されています。国内有数の小麦生産地で知られる熊谷。その背景には、江戸後期に麦作の改良に貢献した麦王・権田愛三の存在があります。権田愛三は、全国各地で講演や技術指導に携わり、麦踏みや二毛作を日本全国に広めました。権田愛三のふるさと熊谷では、いまその歴史と伝統を受け継ぐ人々が、新しい形で全国に国産小麦を広めています。「国産小麦の素晴らしさを知り、製品化を進めることが地域の活性につながると感じています」と実行委員長の松本邦義さん。イベントを通じ、地元店舗に様々なうどんメニューが登場するなど、新しい広がりをみせています。

全国ご当地うどんサミット2019
2019年11月16日（土）～17日（日）
熊谷スポーツ文化公園
熊谷市上川上300　10:00-16:00
イベント詳細はこちらから
https://www.udon-summit-kumagaya.com

熊谷産の小麦を使った"地産地消"のうどんが楽しめる

二日間で約12万人の来場者数を誇る一大イベント

宝登山小動物公園



特集2

今に息づく埼玉の伝統産業

埼玉県では今なお様々な
伝統産業が受け継がれています。
人々の生活を守り、
支えてきた伝統の技。
そして今、そこに住む人たちに
よる新たな挑戦が始まっています。
その技術や文化にふれて、
もっと深く埼玉の魅力を
感じてみましょう。
MADE IN SAITAMAの
技術は意外と身近なところで
使われているかもしれません。

加工によって布のような風合いにもなる手漉き和紙

細川紙《東秩父村・小川町》

和紙に宿る美しさを伝えて

花びらの1枚1枚まで繊細に表現された細川紙の花

東秩父村と小川町の手漉き和紙の歴史は、およそ千三百年前に遡るといわれ、中でも最高品質の「細川紙」の製作技術は昭和五十三年に国の重要無形文化財に指定されています。さらに平成二十六年には、石州半紙、本美濃紙と共に手漉和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録され世界に認められました。

細川紙は国産楮（こうぞ）のみを原料に使うため強靭さがあり、素朴ながらつややかな光沢を持つのが特徴です。今でも書道の半紙や和傘、提灯など和を感じる製品に使用されています。

現在、東秩父村では、平成二十八年にオープンした「道の駅　和紙の里ひがしちちぶ」を中心として、和紙を始めとする特産品の販売や、和紙漉き技術の見学、和紙づくり体験を通じたPRに力を入れています。さらに村では細川・大河原和紙技術者研修生支援事業を行っており、移住を視野に入れた若手研修者を積極的に育てています。

「かつての東秩父村では、当たり前のように行われていた和紙づくりの風景を、地域の記憶として残していきたい」と語るのは、東秩父村で細川紙のPRの推進など地域活動を行っている西沙耶香さん。東秩父村で三年間地域おこし協力隊を経験し、現在は地域コーディネーターとして、東秩父村を拠点に、和紙漉き職人や作家、行政や民間企業と連携しながら、細川紙のPRと和紙フラワーなどの商品開発を行っています。

「時代が変わっても、その土地らしさを人々の心の中に種として残し、次世代へ繋いでいきたい」と語る西さん。県内唯一の「村」では地域の伝統を受け継ぐ取り組みが息づいています。

東秩父村出身の西沙耶香さん

道の駅　和紙の里ひがしちちぶ

秩父郡東秩父村大字御堂441

※各施設によって営業時間などが異なります。

詳細はHPをご覧ください。

http://www.higashichichibu.jp/hosokawashi/washinosato

西川材《飯能市》

木と一緒に生きていく

飯能を中心とした地域は土壌や気候がスギやヒノキの生育に適し、古くから林業が盛んです。江戸大火の復興にも使われたこの木材は、"江戸の西の方の川からくる"という意味から「西川材」と呼ばれるようになりました。いま、この西川材が再び注目を集めています。

西川材の特徴はその色艶と年輪の緻密さ、節の少なさ。西川材のプランナーとして活躍する浅見有二さんはNPO法人西川・森の市場を主体に、オリジナル家具などをプロデュースしています。「本物の木で作った製品を手頃に提供し、良いものを長く使うという心地よさを伝えたい」と話す浅見さん。育林、伐採、加工を経て製品となる西川材。地域の人々の思いがたくさんつまった西川材は、私たちの生活に今も温もりを与えてくれています。

ショールームの外に積み上げられる伐採後の西川材から、さわやかな木の香りが漂います

NPO法人西川・森の市場
西川材ショールーム
飯能市虎秀45
042-980-7745
※見学詳細はお問い合わせください
http://www.morinoichiba.net

「西川材を身近に感じてもらいたい」と語る浅見さん

武州正藍染《羽生市》

世界にはばたく羽生の"藍"

羽生市では江戸時代後半から藍染技術が伝わり、最盛期には市場が立つほどであったといいます。やわらかい着心地が特徴で、剣道の道着やお祭り着などのイメージがある藍染。百四十年余の歴史を誇る小島染織工業では、現社長の小島秀之さんの発案で、伝統を生かしつつも、「若い世代にも藍に興味を持ってもらいたい」とプロダクトブランド「KASE by KOJIMA」を発足。藍染のシャツやバッグ、インテリアグッズなどを販売しています。同社の藍染は、フランスの高級ブランドにも使用された実績もあり、羽生の伝統的な藍染技術は世界に認められています。

糸の芯までこだわって染めるカセ染めから独特の風合いが生まれる

小島染織工業株式会社
（小島屋ショップ）
羽生市大字神戸642-2
048-561-3751
※来店前日に電話にて予約をお願いします。
火・水・木曜日
13:00-17:00のみの営業
https://www.kojimasenshoku.com

足袋《行田市》

足袋から始まるオンリーワンのまちづくり

戦後の洋装文化の波に押されていた行田市の足袋産業。人気ドラマ「陸王」で大きな注目を集めましたが、それ以前から、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークを中心とした人々が足袋文化を広めるべく、活動をしていました。「まずは住人に街のことを知ってもらいたい」という思いから、工場をリノベーションした博物館や体験施設を運営。My足袋づくりが人気となっています。「オンリーワンのものってなんだろう？から始まったまちづくりです」と話すのは、同団体の理事朽木宏さん。地道な取り組みが実り、今や博物館には市外からも多くの人が集まります。

県内初の日本遺産にも指定された「足袋蔵のまち行田」

足袋とくらしの博物館
行田市行田1-2
048-552-1010（まちづくりミュージアム）
10:00-15:00
土曜、日曜のみ開館（夏季・冬季に一時休館あり）
http://www.tabigura.net/tabihaku.html

熟練の技術を間近で体験できる

埼玉ぐらしへ ようこそ！

自然あふれ奥深い歴史と伝統産業が息づく埼玉県。何度か訪れるうちにもっともっと埼玉のことが知りたくなる――。

そんな時は、彼らのところを訪ねてみてください。そのまちに住んでいるからこそ知っているスポットや、とっておきの美味しいものを教えてもらったりしているうちに、

「埼玉で暮らしてみたい」

いつしか、そんな気持ちが芽生えているはずです。

北本市

岡野高志さん 北本市観光協会

「ぜひ子どもたちと一緒に雑木林を楽しんでください」と岡野さん

雑木林のすばらしさ、伝えています！

北本市といえば「ベッドタウン」？ 暮らしやすく便利な街ですが、実はそれだけではありません。雑木林が広がる北本市は県内初の「森林セラピー基地」として認定されており、観光協会が地域の団体とともに雑木林の整備や管理を行い、マルシェや落ち葉を使った堆肥作り体験会などを開催。雑木林に癒しを求めて、イベントには市外からも参加者が多数来場しています。また、観光協会では、全国大会で優勝した北本トマトカレーなど、北本産トマト製品のブランディングにも力を入れ、地域を盛り上げています。

北本市観光協会
北本市西高尾1-249　048-591-1473　月曜～金曜9:00-17:00、日曜・祝日9:00-16:00　http://www.machikan.com

小川町

黒礒由起子さん（左） 武蔵ワイナリー
山下嘉彦さん（中） 有機野菜食堂 わらしべ
重永文恵さん（右） インドネシア雑貨屋台 ぶんぶん堂

移住者が集まる町の交流拠点「玉成舎」

今、移住者による新しいまちづくりで脚光を浴びる小川町。玉成舎はそのなかでも小川町の情報が集まる場所として注目されています。明治21年に建設され、養蚕伝習所「玉成舎」として使われていた風情ある建物をリノベーション。一階ではオーナーの山下さんが有機野菜食堂わらしべを営み、二階は武蔵ワイナリー直売所とインドネシア雑貨を扱うぶんぶん堂が営業しています。

山下さんは16年前に北海道から、ぶんぶん堂の重永さんは20年前に東京から移住。武蔵ワイナリーの黒礒さんも最近、小川町に惚れ込み移住をしてきました。

「小川町には、自然に対する価値観が似ているひとが集まってきている気がします」と語る山下さん。玉成舎には地域や世代を超えた人たちが各地から集まり、小川町の新しい歴史を紡いでいく場所になっています。

一階わらしべの店内。日本家屋の心地よさを感じる

角打ちも楽しめる武蔵ワイナリーの完全無農薬・無添加ワイン

二階のぶんぶん堂。かわいい雑貨に思わず見入ってしまう

玉成舎
比企郡小川町小川197　月曜・火曜定休　※各店の営業時間はHPを確認してください　http://gyokuseisha.jp

横瀬町

田端将伸さん（左） 横瀬町役場
磯田和也さん（右） 横瀬町役場

898って？「もちろん"役場"です！」

横瀬のリアルに出会える場所「Area898」

横瀬町役場からすぐの立地にある一見ラウンジのようなおしゃれな施設。実は横瀬町役場が運営する新しい形のオープンスペースです。

「役場のイメージをもっと明るいものにしたかったんです。それに、子どもから大人、住民も住民以外もオープンに交流できる空間だからこそ生まれてくるアイデアもあります」と語るのはArea898のマネージャーを務める、まち経営課の田端さん。まちづくりのイベント会場やコワーキングスペース、ちょっとした休憩所として利用することができます。Area898に集まる人々から生まれた企画は、町が行っている官民連携事業（通称：よこらぼ）で行政支援のチャレンジ事業として実現させることも可能です。「この場所では、大人も子どももみんな本気。さらに町民と外からの人が交わることで、様々な化学反応が起こり、"ワクワク"が生まれています」と同じくまち経営課の磯田さん。多様な人の集まりを通してまちづくりを推進している横瀬町。Area898を訪れると、横瀬の可能性を体感することができます。

役場のイメージを覆すおしゃれな空間

横瀬町のクラフト作家の展示も

空き店舗を、内装含めほぼ町民らで手作り。いまだアップデート中！

オープン＆フレンドリースペース Area 898
秩父郡横瀬町大字横瀬1926　開館日時･時間はHPをご確認ください　https://area898.space

寄居町

上田嘉通さん（右）
株式会社まちづくり寄居・タウンマネージャー
植村愛琳さん（左）
寄居町役場 商工観光課

ママが楽しめるまちづくりを目指して

移住を考えるとき、子どもたちはもちろん、ママだってその町での生活を楽しみたい。寄居町ではタウンマネージャーの上田さんがリーダーとなり、民間企業協力のもとにママたちのライフスタイルに寄り添った、在宅型の働き方を支援する「ヨリママ」事業に取り組んでいます。「ヨリママ」は子ども優先で在宅勤務をし、収入を得るだけでなく事業主としてのキャリアを積めるシステムとなっており、寄居のママたちの暮らしを強力にバックアップしています。

お子さん連れOKのワークショップも毎回大人気！

YORI MaMa
寄居町商工観光課
大里郡寄居町大字寄居1180-1
048-581-2121（内線451）
http://anymama.jp/yorimama/

神川町

金澤正明さん
株式会社カネザワフルーツリゾート
金澤佳代さん
株式会社カネザワ

神川町を盛り上げる親子の絆

自然素材の家づくりで知られる株式会社カネザワ。今、この会社を経営する金澤さん一家の地域づくりが注目されています。佳代さんは2年前に、暮らしを豊かにする「ヒト・モノ・コト」に出会える場所としてマルシェを開催。100店舗以上が出店し周辺地域の魅力を広くアピールできる場を作りました。一方父親の正明さんも、町の特産でもある梨を中心にフルーツでの町おこしに尽力。パワフル一家のバイタリティで、地域が盛り上がり始めています。

年一回の暮らしマルシェのほか、もちつき大会なども開催

株式会社カネザワ
児玉郡神川町元阿保852
0120-76-2245
暮らしマルシェの情報はHPをご確認ください
https://1520900346.jimdo.com

埼玉ぐらしへようこそ！

埼玉ぐらしへようこそ！

小鹿野町

工藤エレナさん　小鹿野町 地域おこし協力隊員

自然の魅力に溢れる コンパクト・タウン

「小鹿野町はとにかく最高！」と語るのは、小鹿野町の地域おこし協力隊員として活動している工藤エレナさん。ロシア出身で、1年ほど前に都内から小鹿野町へ移住してきました。ご主人とともにミード（蜂蜜酒）専門の事業を手がけたり、ブログ「おがの徒然日誌」やSNSの発信にも熱心で、多くの人から注目を集めています。

「小鹿野町の魅力はたくさんありすぎて語りきれませんが」と工藤さん。充実した商店街、徒歩10分圏内で生活に関する施設がそろうコンパクト・タウンとしての便利さ、そして工藤さんが求めていた、両神山などの雄大な自然。でも移住してきて一番うれしかったのは、「いろいろな人に『小鹿野町にきてくれてありがとう』と言ってもらえること」。今、工藤さんは観光交流館を拠点に、空き家の紹介など移住希望者ごとに案内プランを用意し、「ありがとうと言ってもらえるまち」を案内しています。

交流館は宮沢賢治が宿泊したことでも有名な歴史ある建物

「毎日が楽しくて仕方がない！」と工藤さん

小鹿野町観光交流館 本陣
秩父郡小鹿野町小鹿野314　月曜休館（祝日の場合は翌火曜）10:00-21:00　※移住相談窓口は16:00まで
https://www.town.ogano.lg.jp/kakuka/matidukuri/honjin/honjin.htm

鳩山町

菅沼朋香さん
鳩山町コミュニティ・マルシェ
チーフコーディネーター

ニュータウンの新しい 可能性を探求中

高度成長期に開発された鳩山ニュータウン。その魅力を探るべく移住してきたのが菅沼朋香さん。現在、移住相談やシェアオフィス、カフェなどを運営する鳩山町コミュニティ・マルシェの管理者として、まちづくりに携わっています。現代美術のアーティストでもある菅沼さんは、自身が手がけたサイケデリックな内装のカフェ「ニュー喫茶 幻」も運営。住民やクリエイターがあつまる鳩山町の新しいコミュニティになっています。

コミュニティマルシェでは地域の作家によるアクセサリー小物、農作物の販売のほか、カフェやシェアオフィス、物件紹介コーナーも

鳩山町コミュニティ・マルシェ
比企郡鳩山町松ケ丘1-2-4
049-272-7528
9:00-17:00(まちおこしカフェ、ニュータウンふくしプラザは10:00から)　祝日・年末年始休館
https://hatoyamacm.tumblr.com

本庄市

大橋千賀耶さん
ヌイシロ代表　建築士

住む人たちの 絆を感じるまち

今年から本庄市に移住をし、商店街の長屋を借りて暮らす大橋千賀耶さん。ご主人も建築に携わっているため、ふたりで屋内をリノベーション。居心地のよい空間で本庄暮らしを楽しんでいます。仕事の合間には、木工のワークショップ、コーヒー店の出店や、地域のことを語り合う「本庄暮らし会議」なども運営しています。「町のひととつながる"場"づくりをしていきたい」と語る大橋さん。新しい本庄のまちづくりに楽しみながら携わっています。

大橋さんがお気に入りの風情ある建物

土間で近所のひとと立ち話も

ヌイシロ
Instagramアカウント　@nuisilo
※「本庄暮らし会議」含むイベント情報はホームページからご確認下さい

家族のじかん

「自然あふれる環境で暮らしたい」
「大好きなことを仕事にしたい」
「自分のライフスタイルをちょっとだけ変えてみたい」
ここでは実際に埼玉県に移住をしてきた4組の家族をご紹介します。
移住してきた理由や新しく始まった何気ない毎日のことなどを、埼玉ぐらしを楽しんでいる人に聞いてみました。

[飯能市]
遠藤拓耶さん　望さん
春翔くん　美羽ちゃん
愛翔くん

移住前と変わらない都内の職場に車通勤する遠藤さん。生活基盤を崩すことなく、自分たちが一番楽しめるライフスタイルを実践しています。

子どもたちを自然の中で育てたい

「とにかくアウトドア好きです！」と話すのは、2018年に飯能市に移住をしてきた遠藤拓耶さん。移住前は神奈川県に住みながら都内に通勤し、妻である望さんとともに三人の子育てをしていました。ある時、飯能市の移住促進制度「農のある暮らし 飯能住まい」をウェブサイトで発見。移住を即決して翌年には念願の自然あふれる土地での生活を始めてしまったといいます。

「子どもを育てるのに、自然の力を借りたかった。実際彼らの遊びっぷりをみていると、本当に移住してきてよかったと思っています」と語る拓耶さん。移住したことによるうれしい効果は他にも。

「大人もいる夏まつりや、町内の運動会などに子どもたちも一緒に関わることで、自然と大人との付き合い方を学んでいってくれます。挨拶をする、お礼を言う、根本的なことだけど、大切なことがコミュニティの中で育まれていくのを実感しています」。

家を建てた場所は飯能市が移住を促進している区域で、近年遠藤さんをはじめ、若い家族の移住者が増えてきており、近所の家族と庭でバーベキューをすることも。家族全員でのんびりと、そしてパワフルに飯能ライフを満喫しています。

子どもたちは元気いっぱい！いつも外で走り回っています

無垢の木を使った、あたたかで過ごしやすい家

念願のカフェをオープン！

大人気の「無添加 平飼プリン」。敦さんのお父さんが打つ手打ち蕎麦や、薬膳カレーがいただけます
オクムサ・マルシェ（HP）
https://okumusamarche.com

柔らかな日差しが差し込む越生町のカフェ「オクムサ・マルシェ」。オーナーの浅見敦さんがUターンを決意し2014年に開業。地元の野菜はもちろん、越生町特産の梅や柚子を使ったメニューを提供し、奥武蔵の自然食材の魅力が堪能できる人気カフェとして今では地元だけでなく遠方からも訪れる人が増えています。もともとデザイナーとして東京で勤務していた敦さん。お店に関連する制作物も自分で手がけています。

奥さんの洋子さんとともに久しぶりに地元に戻り生活を始めると、以前住んでいたころは当たり前すぎて気にしなかった朝の鳥の声、川のせせらぎなど本来の自然の姿を再認識し、自分が生まれ育った土地がいかに恵まれていたか、を実感。「越生町は地形の入り組んだ土地だからこそ、奥行きのある自然の風景が楽しめます。空気もきれいで水も豊富。お店づくりでは、自然と一体化した空間を目指しています。越生町に来た方にリラックスしてもらえる場所を作っていきたいですね」

越生町には東武鉄道やJRの駅もあり、「利便性もあるのに、ちょっと行くと本当に自然が豊か。こんな身近な田舎も珍しいと思います」と笑う敦さん。町外でのイベントにも積極的に参加するなど活動の幅を広げて埼玉での暮らしを楽しんでいます。

地元の人たちとの関わりも、日々の生活の中で楽しんでいます！

[越生町]
浅見敦さん　洋子さん　樹くん

カフェの建物は友人の建築士と相談してリノベーション。陽の光が差し込む大きな窓からは、季節ごとの奥武蔵の風景が楽しめます。二階部分では展示スペースとして竹細工などの作家の作品も販売。

アウトドアを通じて地域を楽しむ

借りている一軒家の内装は、オーナーが秩父から古民家を移築してきたもの

2019年5月にときがわ町に移住してきたばかりの青木夫妻。通称〝野あそび夫婦〟として、ときがわ町でキャンプ民泊NONIWA（のにわ）を営んでいます。「キャンプ場の管理者として、お客さまに各々のスタイルのキャンプを楽しんでいただいています」と語る青木夫妻。ご主人の達也さんは、現在も県内の企業で会社員を続けながらキャンプインストラクターの資格を取得。NONIWAでは、本格的なキャンプ用品も気軽にレンタルすることができ、初めての人のためのキャンプ教室やダッチオーブン教室などのイベントも開催しています。

妻の江梨子さんも以前は都内で映像制作ディレクターとして多忙な日々を送っていたそうです。仕事が忙しく、休みもあまり取れない毎日のなかで自分のライフスタイルを見つめ直していたところ、移住情報の検索で発見したのがときがわ町。何度か通ううちにすっかり町に魅せられた二人は、だんだんと地域の人とも仲良くなり、今では町の観光PRにも関わるほど。SNSや動画配信などを通して町の魅力を発信し、移住を考える人とときがわ町をつなぐ重要な架け橋としても活躍しています。

［ときがわ町］

青木達也さん
江梨子さん

夫婦共通の趣味としてずっと楽しんできたアウトドアで、他の人たちにも楽しんでもらいたい。そんな思いから始まった野あそび夫婦の活動は、SNSや動画配信でみることができます。
野あそび夫婦HP
https://noasobifufu.com

地元食材を使った朝食を三波渓谷でいただく「ときがわばっかり食堂」も開催しています

移住家族がオープンした地域に愛される食堂

［秩父市］

細野昌行さん　かの子さん
蒔結ちゃん
ドルチェ　バディ
リボン

「自宅は武甲山の中。いろいろな動物もでてきますよ！」と語る昌行さん。家族の犬たちも、のびのびと暮らしています。
ふくくるしょくどう
秩父市永田町5-29
0494-26-5668
水曜定休（火曜は昼のみ）
※詳細は店舗にお問い合わせください。

3年半前に、空き家バンクを利用して東京の立川市から秩父に引っ越してきた細野さん一家。自宅は武甲山の山の中にある中古物件を購入し、秩父市街地で自らオープンさせた「ふくくるしょくどう」に通っています。中華、和食で料理人として修行を積み、お弁当屋さんを営んでいた昌行さん。娘の蒔結ちゃんの喘息のことや、ずっと一緒に暮らしている犬たちのことを考え、家族にとってより良い環境を求め、秩父への移住を決めたと言います。

「移住先でお店を持つということに当初は不安がありましたが、オープン後に、どんどん地域の人たちとの距離が縮まってくるのを感じました」と話すかの子さん。また、秩父が舞台になったアニメのファンや、ロードバイクの旅行者などのネットワークで、ふくくるしょくどうが立ち寄りスポットとして広まったこともあり、遠方から訪れるリピーターも多いそう。

小学校までは歩いて1時間強かかりますが、最近はめっきり体力をつけた蒔結ちゃん。元気に走り回る姿に、両親も目を細めます。求めていたライフスタイルの中でプライベートも仕事も楽しむ細野さん。お店には今日もみんなの笑顔があふれています。

地元の人が手作りする小物を店内で販売。ここから新しいコミュニケーションが生まれます

秩父を覆い尽くす雲海をイメージした一番人気の「雲海麻婆」

お試し住宅、体験しました！

in 小鹿野町 & 皆野町

仕事でも遊びでも、たびたび埼玉を訪れるという須井さん親子。夏休みを利用して、2週間のお試し移住を体験！東京から身近な埼玉県ですが、通うのと暮らすのでは、見え方も全然違ったとか。そんな子育てママによる埼玉暮らしのレポートをお届けします。

お試し住宅は街中とはいえ静かな環境なので、宿題や仕事がはかどりました！（皆野町）

池袋から特急電車で約80分。西武秩父駅でレンタカーを借りて、役場へと向かいます。今回は小鹿野町と皆野町にある移住検討者向けのお試し住宅をお借りする予定。どこか遠くの田舎町へ来たかのように、まわりは山々に囲まれていきます。

最初に滞在した小鹿野町は、町営住宅を活用したお試し住宅で、気に入ったら同じ間取りの家が借りられるそう。小鹿野町の一番の魅力は、幼保小中高の教育機関を含め、生活に必要な要素が全て中心部に集まっていること。子育てには最適なコンパクトシティです。現に、地域おこし協力隊員として活動する工藤エレナさん一家は、1歳のお子さんを育てていますが、車は所有しておらず、旦那さんは週2日ほど仕事で都内へ通勤しているというから驚きです。

続いて滞在した皆野町は、秩父鉄道の皆野駅もあり、お試し住宅も駅から徒歩10分程度とアクセスの良い場所。DIYでリノベーションされた平屋の家では、理想の田舎暮らしが楽しめます。ちなみに、皆野町は秩父音頭発祥の町といわれ、ここで育った子供も大人も、みんな秩父音頭が踊れるそうですよ。小さな子から部活の格好をした学生、お母さんサークル、ベテランのお爺ちゃんまで老若男女が踊っていて、何だかほっこりするお祭りでした。車さえあれば周辺の市町へのアクセスも良く、無料で楽しめるスポットをたくさん巡れたのも、親子に嬉しいポイントでした。

いつもはマンション住まいなので、広い2階建ての一軒家に息子も大喜び。（小鹿野町）

現地の方のアテンドで、小鹿野のまちなか散策。秩父の山奥というイメージとは一変して、古い町並みや可愛いお店にワクワクしました。

まとめ

この辺りの22時は真っ暗で、真夜中のような静けさ。でも、夜が長い分、家族で過ごせる時間がたっぷりあるのはうれしいこと。（もしかしたら不便かも？）と思っていましたが、実際にはすぐ都心にも出られる利便性が今回の新たな発見！よく訪れている場所でも、実際そこに住んでみると180度視点が変わる。そんな滞在でした。

横浜生まれ、横浜育ちの親子。田舎暮らしはもちろん、一軒家で暮らしたこともない。小学生になって初めての夏休みに埼玉暮らしを体験！

体験レポーター
雑誌「TURNS」編集部　須井直子・清志郎

皆野滞在の最終日は、無料で楽しめる「彩の国ふれあい牧場」へ。息子のお気に入りスポットになりました。

「#埼玉のたのしみかたフォトコンテスト2019」開催！

◆応募期間

2019年10月9日(水)～2020年1月8日(水)

◆応募資格

どなたでもご応募できます。複数枚の応募も可能です。
※未成年の方は保護者の同意が必要です。

◆応募条件

次の1.～3.の条件をすべて満たすもの

1. 埼玉県内で撮影された写真で､｢埼玉を楽しむ様子｣が伝わるもの
2. 2019年1月1日以降に撮影されたもの
3. 応募者本人が撮影し、著作権を有しているもの

◆応募方法

① 「#埼玉ものがたり」公式SNSアカウントをフォロー

Instagram	@saitama_story
Facebook	@saitama.story2019
Twitter	@saitama_story

② 埼玉を楽しんでいる写真をお手持ちのカメラやスマートフォンで撮影

(例)オススメのスポットやお店、埼玉暮らしを楽しんでいる人々、お土産に持って帰りたくなる逸品、埼玉にまつわるヒト・モノ・コトと一緒に、楽しさが伝わってくる写真など

③ 撮影した写真に､｢#埼玉のたのしみかた｣を付けて、写真をSNSに投稿

豪華賞品をGetしよう！

最優秀賞(1名)
秩父地域の提携宿で使える特別ペア宿泊券(3万円相当)

優秀賞(1名)
秩父市内の提携店舗で使える和同開珎型の商品券(1万円分)

特別賞(1名)
埼玉県の美味しさを詰め込んだギフトセット(5000円相当)

●その他、入選作品(5作品)は雑誌｢TURNS｣40号(2月20日発売)の埼玉特集内にて紹介させていただきます。

※賞品は予告なく変更となる場合がございます。ご了承ください。

●応募に関する詳細はこちらから
https://turns.jp/31756

＼ もっと知りたい！ ／

埼玉県の移住情報サイト

住むなら埼玉！ 移住・定住情報

埼玉の移住情報を集めたHPです。住まい、子育て、仕事、移住者インタビューのほか、イベント情報も随時更新中！

saitama story プロモーション

埼玉暮らしの魅力、進行中のプロジェクトやイベント情報などをリアルタイムで発信。Instagramではフォトコンテストも開催中です。

saitama_story　saitama.story2019　saitama_story

埼玉ではじめる「農ある暮らし」

農業をはじめる、家の近くの市民農園で野菜を育てるなど、都心に近い埼玉だからできる「農ある暮らし」に関する情報をまとめてご紹介。

「働くなら埼玉」移住就業マッチングサイト

東京23区（在住者・通勤者）から埼玉県内の対象地域に移住し、地元企業に就職した方に最大100万円を支給する「移住支援金」の対象求人を紹介しています。詳しくはこちらをチェック。

空き家バンク

埼玉県内の空き家の物件情報を掲載しています。市町村が運営する空き家バンクのサイトへはこちらのHPからどうぞ！

地域おこし協力隊

地域の活性化を担う「地域おこし協力隊」。埼玉県でも秩父銘仙の普及やダリア園のPRなどの地域活動の担い手として活躍中。活動内容や募集状況はこちらのHPから。

ちょこたび埼玉（県観光課）

埼玉県の公式観光サイトです。埼玉の見どころ・食べどころ・遊びどころ！埼玉の"旬"がわかる情報が満載！

＼ 体験してみよう！ ／

県内お試し住宅のご案内

埼玉県の魅力にもっと触れてみよう！
移住先での日常生活を体験できるお試し住宅に泊まってみませんか？

秩父市

お試し居住住宅
「秩父杉の家 絆」

池袋から特急電車で約80分、関越道、圏央道も利用しやすい好立地で、都心に近いちょうどいい田舎暮らしを体験できます。

秩父市野坂町2-12-30
☎ 0494-26-7946
（秩父市移住相談センター）

ときがわ町

おためし住宅
「やまんなか」

ときがわ町に移住・定住を考えている方が、町内での生活の体験、日常の暮らしを直接感じることのできる施設！ ぜひ!! 田舎暮らしをおためしください。

比企郡ときがわ町大字雲河原328
☎ 0493-65-0404
（ときがわ町役場 企画財政課）

皆野町

お試し居住用住宅
「来てみ〜な」

皆野町は秩父市と長瀞町の間にたたずむ、人の暖かさを感じられる町です。鉄道駅が2つあるほか、スーパーや病院も中心部にあるので生活も便利！豊かな自然と共存する暮らしを是非お試しください。

秩父郡皆野町大字皆野1643-5
☎ 0494-26-7334
（皆野町役場みらい創造課）

小鹿野町

お試し住宅

町営住宅と同じ間取の物件を改装した施設です。コンビニまで徒歩約5分、スーパーまで車で5分、盆地ののどかさを感じながら生活に必要なものが揃う小鹿野町のリアルな暮らしを体験できます。

秩父郡小鹿野町飯田598-2
【平日】☎ 0494-75-1238
（小鹿野町役場総合政策課）
【休日】☎ 0494-26-6760
（おがの移住相談窓口（観光交流館））

東秩父村

移住体験施設
「MuLife」

ユネスコ無形文化遺産の「細川紙」の産地としても知られている東秩父村。築80年の古民家をリノベーションした施設で村の生活が体験できます。

秩父郡東秩父村大字奥沢234-1
☎ 0493-82-1254
（東秩父村役場 企画財政課）

＼ 参加してみよう！ ／

宮代町 みやしろ初めてツアー

東武スカイツリーラインで北千住駅まで約35分。ほどよく自然が残り、都会と田舎のいいとこどりができる宮代町を約2時間で見て回る個別ツアーです。町を熟知した役場職員がご希望の公共施設や住宅街をご案内します。

☎ 0480-34-1111（宮代町役場 企画財政課：内線214）

＼ 相談してみよう！ ／

移住に関するご相談はこちらから！

「埼玉県に移住したいけど、どうすればいいの？」そんなときには
ぜひ移住の専門相談員がいるサポートセンターへお気軽にお問い合わせください。

埼玉県（東京・有楽町）

「住むなら埼玉」移住サポートセンター

東京・有楽町にある埼玉県全体の移住に関する総合窓口です。都心に近く、自然豊かなのが埼玉県の魅力。専門の相談員があなたのご相談にワンストップで対応します。埼玉県への移住に興味を持った方は、まずはこちらへお気軽にご相談ください！

東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階
（認定NPO法人ふるさと回帰支援センター内）
☎ 090-1559-4781

行田市

行田市移住・定住相談窓口

古代から現代まで歴史が息づくまち行田市。移住を検討される方に対し、移住・定住コンシェルジュが行田市での暮らしに関する幅広い情報の提供や個別相談を行っています。

行田市本丸2-5
（行田市役所企画政策課内）
☎ 048-556-1111
（内線312）

秩父市

秩父市移住相談センター

都会と田舎のいいとこ取りができる"ちょうどいい田舎"です。まずは一度、ご相談ください！

秩父市宮側町1-7
秩父地場産センター4階
（秩父鉄道秩父駅直結）
☎ 0494-26-7946

小川町

小川町移住サポートセンター

手漉き和紙や酒造、そして有機農業の里としても有名な小川町で暮らしてみませんか？

比企郡小川町大字大塚47-3 2階
☎ 0493-74-1515
（観光案内所「楽市おがわ」と共通）

鳩山町

鳩山町移住推進センター

行政と民間の複合施設として整備したタウンセンター内にある「鳩山町コミュニティ・マルシェ」の中にあります。空き家バンクの利用申込や移住相談ができるほか、物件情報コーナーも設置しています。

比企郡鳩山町松ヶ丘1-2-4
（鳩山町コミュニティ・マルシェ内）
☎ 049-272-7528

小鹿野町

おがの移住相談窓口

地域おこし協力隊員、町職員、移住支援コーディネーターが、小鹿野暮らしをサポートします。希望者には、町内のご案内も行っています。

【平日】
秩父郡小鹿野町小鹿野89
（小鹿野町役場小鹿野庁舎2階 総合政策課内）
☎ 0494-75-1238　8:30〜17:15
【土日祝日】
秩父郡小鹿野町小鹿野314
（小鹿野町観光交流館内）
☎ 0494-26-6760　10:00〜16:00

saitama story 訪ねる楽しみ、暮らす楽しさ

表紙写真　ときがわ町 NONIWA
撮影＝中村香奈子

編集・執筆　櫻井理恵
草野明日香
須井直子
デザイン　熊谷昭典（SPAIS）
小早谷 幸
佐藤ひろみ
撮影　小松正樹
中村香奈子
渡部勇介
三浦えり

saitama story

訪ねる楽しみ、暮らす楽しさ

令和元年10月19日　発行

制作　株式会社第一プログレス
株式会社櫻井印刷所

発行　埼玉県 企画財政部 地域政策課
さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-2773　FAX 048-830-4741

彩の国 埼玉県